

第2回統合創・省・基盤技術エネルギー教育研究拠点国際シンポジウム 報告

九州大学先端物質化学研究所 教授

岡田 重人

昨今、環境保全とエネルギーの効率的利用が豊かな文明を支える大事な要素となっています。エネルギー基盤技術国際教育研究センターでは、現実的エネルギーである炭素資源と再生可能エネルギーのベストミックス構築に向けて、蓄電・蓄熱、熱電、省エネルギー技術等の学際融合によるグリーンイノベーションの実現を目指しています。炭素資源研究をリンクさせるため、炭素資源国際教育研究センターとの連携も進めています。これらの2センター連携の一環として、2センター共催により、昨年度の第1回に引き続き、第2回統合創・省・基盤技術エネルギー教育研究拠点国際シンポジウムを、平成27年11月26日(木)に九州大学筑紫キャンパスの筑紫ホールで開催しました。

本シンポジウムには、中国、韓国、アメリカ、スペイン、日本から講師を招へいし、多数の教員や学生が参加して活発な討論が行われました。本シンポジウムは、太陽電池、誘電体、液晶、炭素材料、蓄熱とデバイスレベルで多岐に渡った内容の講演が行われ、エネルギー基盤技術を中心に炭素資源技術をリンクさせる内容で開催されました。終日、様々な分野の参加者による多面的で活発な討論が続き、学際融合の観点からも非常に有効な議論が行われました。

最終的に、シンポジウムの参加者は合計165名となり、国際シンポジウムとして成功裏に終了しました。エネルギー基盤技術国際教育研究センターと炭素資源国際教育研究センターは引き続き、密接に国内外の関連研究機関と連携を密にし、九大におけるエネルギー研究の一翼を担うことを目指していく予定です。



Dr. Pardo and Ms. Bucur



Prof. Feng



Prof. Itaya



Dr. Tabelin



Prof. Yamaguchi



Prof. Menendez



Prof. Lee

